



子どもの6分の1 6人に1人が貧困状態に陥っているといわれる現在の日本。この連載では、その6分の1の子どもたちの現状と、この地域で「子ども貧困」の解決に取り組む団体の活動をご紹介します。

“子ども”がセンター

—— 『公益財団法人 子どもの貧困対策センターあすのば』 理事 佐藤寛太 ——

「子どもの貧困対策法成立」から満2年を迎えた2015年6月19日に、子どもの貧困対策センター「あすのば」は設立・誕生し、今年で1周年を迎えました。あすのばは、調査・研究とそのデータなどに基づいた政策提言、全国の支援団体の活動が持続し発展できるような支援団体への中間支援、子どもたちの自立のために物心両面での直接支援の3つを中心に活動しています。もう一つの大きな特徴は、子どもがど真ん中・「センター」のポジションとして、孤立し声を出せない子どもの声を大切にすることを目指していることです。6人の理事のうち3人が「子ども」を代表した学生で、私もその1人です。子どもの声を直接、理事会などで発言できる組織となっています。

また、2016年4月1日、あすのばは内閣府より公益認定を受け、一般財団法人から「公益財団法人あすのば」として新年度をスタートしました。

あすのば東海支部について

あすのばは主に首都圏の学生が中心になって活動している団体ですが、地方でも活動しています。中でも東海支部は、まだ『あすのば』という名前も決められていない設立準備段階から関わっていました。設立準備金の1000万の寄付金を募るために去年の6月に計3日間、栄で募金活動を行いました。まだ知名度がないに等しい状態だったので、積極的に新聞社にプレスリリースをお送りし、新聞に掲載していただきました。街頭で募金活動をした人数は私を入れて3人しかおらず、あまり寄付金を募ることはできませんでした。しかし、新聞記事を読んで募金してくださる方がいたり、リーフレットを何百枚と配ることで団体の周知に繋がり、テレビでも報道してもらったことで2日目以降は寄付金が多く集まるようになりました。その準備のため、東海支部ではSkypeでミーティングを行い、資料作りは名古屋市民活動推進センターで行いました。首都圏のメンバーとの連絡はLINEのグループ機能とノート機能を利用することで情報共有をしています。まだまだ人数は少なく首都圏が中心の活動を行っていますが、東海支部だけで何かで

きないか日々考えています。

交流会・意見交換会

あすのばでは、各地域で活動しているボランティア団体を知るために大阪・福岡・岡山・名古屋・仙台・北海道の6拠点で交流会・意見交換会を行いました。名古屋では、2016年1月31日に名古屋市教育館で開催し、80人の方々にご参加いただきました。

午前の第1部では、村井琢哉副代表が「子どもの貧困の現状・問題点と今後なにが必要か」をテーマに講演し、その後のパネルディスカッションでは、「いま東海地区の子どもたちは、求められる支援」について議論しました。パネリストには、佐藤真紀さん(岐阜学習支援ネットワーク・仕事工房ポポロ)、高橋なおえ(あすのば東海支部・同朋大学4年)、田中高久さん(アンビシャスネットワーク)、野田芳樹さん(おてらおやつくらぶ東海)が登場し、村井副代表がコメンテーター、小河光治代表理事がコーディネーターを務めました。「きょうの晩ごはん代は30円」という子どもなどの厳しい実態の報告や、子ども支援に関わるさまざまな方々がネットワークを組んで対応している実践例などについても紹介されました。

午後の第2部は、学生企画として「貧困家庭の子どもケーススタディ」を行い、意見交換をしました。先ほどのパネリストを中心にグループを作り、どのような支援を行えば、子どものやりたいことを達成できるかを参加者の皆さんと一緒に考えました。各班とも活発な意見が飛び交い、リアルな子どもの貧困の現状を知っていただく機会になりました。

実は、このケーススタディのモデルとなった学生は私自身で、各団体がどのように対応していくかを聞きながら、幼い時にそのような支援を受けられたら良かったのにと思いました。幼い時の私と同じように「単純に知らなくて支援を受けられない子どもたち」に、各団体の活動内容をどのようにして知らせていくかが今後の課題になっていくと思います。

「ここにいるよ。」プロジェクト

あすのばに関わる大学生らが、経済的に困難な

子どもたちの入学や新生活を社会全体で応援する「入学・新生活応援給付金」の資金を募るため、全国各地で募金活動などを行うプロジェクトです。この「入学・新生活応援給付金」は住民税非課税世帯の小学生から高校生までに各3~5万円が給付されます。給付金を受ける子どもたちに対して、社会のいたるところに「あなたへ想いを寄せている人が、ここにいるよ」というメッセージを伝えるために、全国で延べ1万人の寄付者・ボランティアの協力を目標としました。

このプロジェクトは、去年の11月15日に東京駅から始まり12月20日まで行いました。名古屋では、12月5日・6日に栄で募金活動を行い、66,062円の寄付が集まりました。今春、入学・新生活を始める子どもたちへの「あすのば入学・新生活応援給付金」は200人に給付を内定し、3月31日までに証明書類を提出し、最終審査を終えた192人に給付金を支給しました。「ここにいるよ。」プロジェクトには、目標額600万円を大幅に超える791万円あまりの寄付をいただき、2,400人を超す方々にご協力いただきました。給付金を受け取った方からは、「制服が買えて子どもに辛い思いをさせずに済みました」などの言葉をいただき、少しでも多くの子どもに給付金を送れるようにしなければと感じました。

なぜこの活動を行っているか？

私は上記でも述べましたが、貧困家庭の当事者です。幼い頃に父を亡くし、金銭面では辛い生活を強いられてきました。高校・大学とも奨学金のおかげで何とか進学することができ、現在大学4年生で就職活動を行っています。大学1年生の時から親を亡くした家庭の子どもたちへのボランティア活動を続けてきましたが、離婚家庭の子どもや、両親がいても金銭面が厳しい家庭の子どもたちへの支援が薄いのではないかと考えるようになりました。どのような事情があろうとも、子どもがやりたいことを制限する理由にはならないと思います。貧困家庭の子どもだったら全員が支援対象。私は全ての貧困家庭の子ども達へ何か支援ができないかと思い、

この活動をしています。もしかかもしれませんが、先述のような給付金を届けたり、他団体と繋がりをもつことでどのように支援するか考えたりと、すぐには成果が出ませんが、何か良い変化を起こすために今年度も活動を続けていきたいと思っています。

今年の夏も去年と同じく、8月の中旬に大学生と貧困家庭の高校生たちがキャンプをする「あすのば合宿ミーティング」を行います。去年よりも多くの子どもたちに参加していただき、少しでも良い方向に変われるようなイベントにしたいと考えています。そのためにも、あすのばでは新しく一緒に活動するメンバーを募集しています。対象は高校生・大学生世代の子ども・若者までとしています。「何かボランティア活動をしたい」「多くの人と関わりたい」などの理由でも構いません。少しでも興味のある方は、お話だけでも構いませんので、気軽にご連絡ください。よろしく願います。



多くの方にご協力いただいた街頭募金



子どもたちで組織する「子ども委員会」

INFORMATION

子どもの貧困対策センター 公益財団法人あすのば
東京都港区赤坂3-21-6 河村ビル6階
電話:03-6277-8199
FAX:03-6277-8519
東海支部Eメール: toukaiusnoba@gmail.com
首都圏Eメール: info@usnova.org